

平成29年度 志木市の決算報告

問合せ／財政課 内線2253

平成29年度の決算が、平成30年第3回志木市議会定例会で認定されました。
私たちが納めた税金がどのように使われ、また、市の財政がどのような状況にあるのかをお知らせします。

一般会計

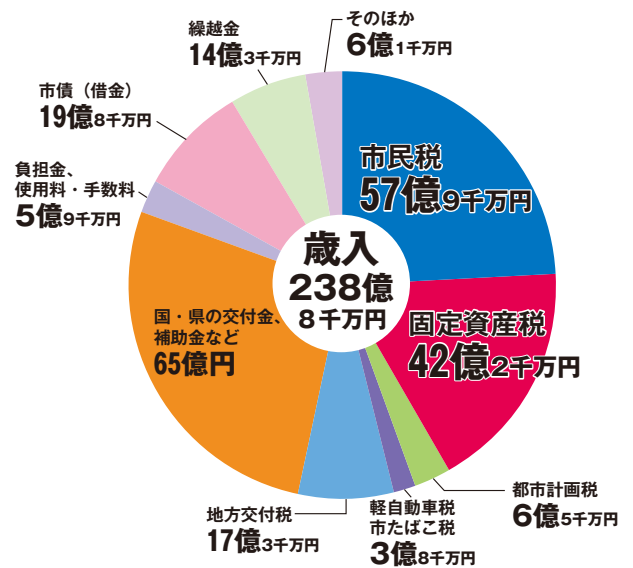
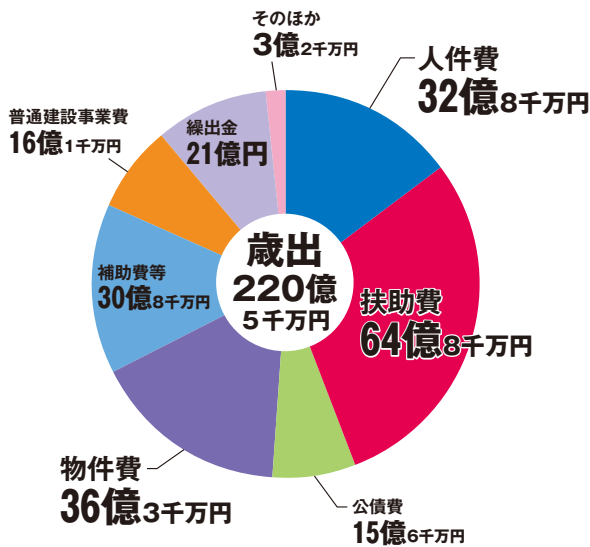
平成29年度の一般会計の決算額は、歳入が238億8千万円、歳出が220億5千万円になり、差引額18億3千万円となりました。

ここから、翌年度の事業に使うために繰り越すべき財源(3千万円)を差し引いた額の18億円(黒字額)が実質収支額となっており、前年度に比べると3億8千万円の増加となりました。この実質収支額は、平成30年度の歳入に繰り越されます。

また、市の貯金である財政調整基金の残高は、25億7千万円となっており、前年度に比べると1億円の増加となりました。

市民1人あたりでは…
市税の負担……………14万5千円
市民サービスに使われたお金…28万9千円

※市税の負担は、市税収入額を人口76,189人(平成30年3月31日現在)で除した額
※市民サービスは、一般会計の歳出額を市民一人あたりに換算した額



※1千万円未満を四捨五入しています。そのため、合計があわない場合があります。

歳入

歳入の総額は、前年度に比べて、6億6千万円の増加となりました。

この増加の主な要因としては、繰越金が2億1千万円の減となったことや、普通交付税が1億7千万円の減となったものの、総合福祉センター改修事業、柳瀬川図書館大規模改修事業などによる地方債の新規借入れに伴い市債が5億6千万円の増となったこと、市税が2億2千万円の増となったことなどによるものです。

歳出

歳出の総額は、前年度に比べ2億7千万円の増加となりました。

この増加の主な要因としては、公共施設安心安全基金積立金の減などにより積立金が4億7千万円の減となったものの、総合福祉センター改修事業、柳瀬川図書館大規模改修事業などにより普通建設事業費が4億5千万円の増となったことや、民間保育園などへの運営助成である特定教育・保育施設及び特定地域型保育委託等事業により扶助費が2億3千万円の増となったことなどによるものです。

特別会計・企業会計

特別会計は、国民健康保険や介護保険など市が特定の事業を行う場合に、一般会計と区別して設置し、その特定の歳入をもって特定の歳出に充てるものです。

企業会計は、独立採算制を原則とする企業の色彩の強い事業を行う場合に、法令や条例に基づいて設置するもので、本市では、水道事業や下水道事業が該当します。

◆特別会計

会計名	歳入額(うち一般会計繰入金)	歳出額
国民健康保険	92億3千万円(6億1千万円)	86億4千万円
志木駅東口 地下駐車場事業	5千万円	5千万円
介護保険	43億9千万円(6億1千万円)	41億1千万円
後期高齢者医療	8億7千万円(1億4千万円)	8億6千万円

◆企業会計

水道事業会計

収益的収入及び支出(税抜)	収入	支出	当期純利益
	13億1,604万円	11億6,366万円	1億5,238万円
資本的収入及び支出(税込)	収入	支出	不足額
	1,444万円	6億2,452万円	6億1,008万円

下水道事業会計

収益的収入及び支出(税抜)	収入	支出	当期純利益
	19億5,661万円	18億78万円	1億5,583万円
資本的収入及び支出(税込)	収入	支出	不足額
	4億4,898万円	7億7,958万円	3億3,061万円

※資本的収入が資本的支出に不足する分は、損益勘定留保資金などで補填しました。

市債残高の推移と 経常収支比率

市債(市の借金)残高は、企業会計の返済が進んだことに伴って、前年度より2億6千万円の減となりました。今後も、将来に役立つ財産形成のために、財政負担を考慮しながら計画的な借入と返済をしていきます。

経常収支比率は、定期的な収入(特定財源以外)の割合が定期的な支出に使われたかを表し、この比率が90%を超えると財政の硬直化が進んでいる状態と考えられます。平成29年度は93.0%となり、前年度に比べて1.3ポイントの改善となりましたが、依然として高い数値であることから、引き続き、上昇の抑制に努めていく必要があります。

◆市債残高の推移

会計名	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末
一般会計	154億1千万円	154億7千万円	160億円
志木駅東口 地下駐車場事業	2億2千万円	1億8千万円	1億4千万円
水道事業	28億6千万円	26億5千万円	24億4千万円
下水道事業	61億4千万円	56億0千万円	50億7千万円
市全体	246億3千万円	239億1千万円	236億5千万円

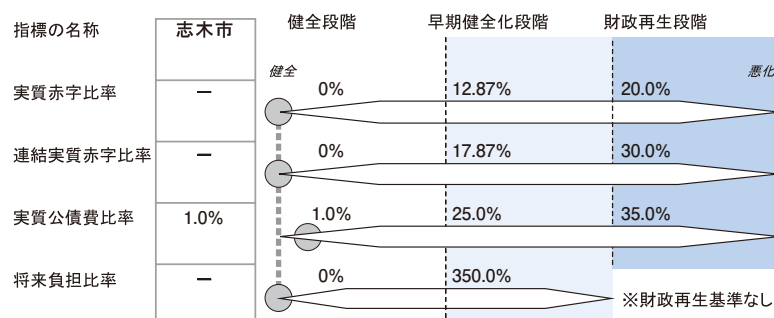
※1千万円未満を四捨五入しています。そのため合計があわない場合があります。

市民1人あたりでは…
借金残高………31万円(前年度比▲1万円)

◆経常収支比率

平成28年度 94.3% → 平成29年度 93.0%

◆健全化判断比率



※「実質赤字比率」及び「連結実質赤字比率」、「将来負担比率」は、将来支払う借金の返済額などよりも地方交付税や基金などの将来の収入見込額の方が大きいので、数値は表されません。

財政状況は健全

健全化判断比率の基準では、市の財政状況は健全を維持しています。しかし、これらの数値には、新庁舎建設をはじめとした公共施設の維持・更新経費や、借地となっている学校・公園用地を取得することになった場合に発生する費用などは含まれません。したがって、引き続き健全な財政運営に向けて注意しながら、財政運営を進めていくことが大切です。

◆資金不足比率

企業会計の名称	志木市	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.00%
下水道事業会計	—	

市ホームページでは、図表付きで財政状況を詳しく解説しています